

## 2 1. 去勢鶏作出による「豊のしゃも」雄の有効活用法の検討

大分県農林水産研究指導センター畜産研究部豚・鶏チーム

○（病鑑）人見 徹、阿南加治男、（病鑑）川部太一

### 【緒論】

「豊のしゃも」は昭和 63 年から生産を開始した大分県特産地鶏で、現在も改良を重ね肉質の良いシャモの雄と、産卵性と増体の良い九州ロードの雌を交配して生産されている。

平成 25 年度の種鶏場からの素雛供給羽数は 29,700 羽で、大分県の地鶏として県内外に定着しているが、最近の消費者の嗜好から固い雄の肉は好まれず、雌雛の需要増加により鑑別後の雄雛が余る状況となっている。そこで、雄雛の有効活用と、豊のしゃものさらなる知名度向上のため、消費者の嗜好にあう肉質の鶏の生産を目指して「シャポン（去勢鶏）」を試作し、利用の可能性について検討した。

### 【材料と方法】

試験鶏は豊のしゃも雄 31 羽を 48 ～ 53 日齢で去勢した。対照として同日齢の雄 7 羽、雌 6 羽を用いた。肥育方法はウインドレス鶏舎で市販のブロイラー用飼料を給与し、去勢鶏は一群で飼育、対照の雄・雌は混合飼育した。去勢鶏のうち飼育中に、精巣再生による鶏冠の発色など雄の特徴が現れた個体は、闘争を避けるため別群に隔離して飼育した。

飼育期間中は増体調査を行い 160 日齢で解体した。解体時に肉の部位別重量、精巣の有無及び重量を調査した。食味調査はセンター職員をパネラーとした、雄・去勢・雌の比較によるアンケート調査及び、料理店等へのサンプル提供を行い肉質の評価を行った。

### 【結果】

発育成績は 155 日齢の平均体重で、去勢鶏 4526.9g、雄 4533.0g、雌 3374.4g となり、去勢鶏は雄と同等の発育となった。育成率は、去勢鶏 87.1%、雄 100%、雌 66.7%であった。

去勢鶏の精巣調査では、精巣を完全除去された鶏 40.7%、片側再生 33.3%、両側再生 26.0%であった。精巣重量は、再生した精巣の平均 17.7g、対照雄の平均 34.2g であった。

食味試験では、パネラー 18 名による 3 種類の順位付けによる評価を行った。パネラーが 1 位と評価した割合は、「おいしかった」の項目は去勢鶏、雄がともに 44%で同率であったが、「肉汁が多い」では去勢鶏が 39%、「好ましい」は去勢鶏が 56%で最も高かった。

料理店、レストランの評価でも、「歯ごたえが適度」「美味しい」など高評価であった。

### 【考察】

去勢鶏の増体成績は雄と同等となったものの、育成率は精巣再生した鶏の攻撃による事故のため低い値となった。精巣再生した鶏の隔離後は事故の発生が無かったことから、発育のバラツキを防ぐためにも雄の特徴が現れた鶏の早期隔離が必要と考えられる。

食味については、パネラーによる調査、料理店ともに高評価であり、肉質の固い豊のしゃもは去勢の効果が出やすいと考えられる。現状の豊のしゃも供給状況では雄雛が毎月 1,000 羽程度処分され、有効な活用法の検討が必要である。今回の試験結果から去勢鶏の販売も活用法の一つとして有効と考えられ、当部では来年度より「冠地どりの去勢試験」を実施する予定であることから、そこで得られる知見は豊のしゃもにも応用したい。